



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

学校行事・考

帝京大学小学校 校長
石井 卓之

1度、天候により延期した運動会を14日(土)に実施することができました。閉会式でもお話しましたが、保護者の皆様の参観マナーが素晴らしく、子ども達の係のがんばりにも助けられ、運営がとてもスムーズに行えました。改めて、心より感謝いたします。

クラスルームに記載された保護者のアンケートを体育科がまとめている途中ですが、先日提出があった分を拝見しました。学校が運動会を通して育成したい子どもの姿を捉え、あたたかい言葉で書かれている内容が数多くあり、本当にありがたいと思いました。もちろん、課題の指摘も今後の参考になり、次年度の改善に役立つ内容となります。

音響関係は昨年度からの課題ですが、未だに改善が図れないものの一つです。創立から10年以上が経ち、機器やシステムの劣化は否めません。一方、全てを交換すると数百万円が必要となり、1年間の1日のためにそこまで経費をかけるのかという費用対効果の問題もあります。今後は、部分修理やレンタルなど多様な方向性を検討し、最大限の努力をしていきます。

今年度は、11月23日(木)に学芸会があります。月曜朝会で子どもたちには話をしましたが、劇の配役を決めるときに、オーディションを実施する学年があります。そこには、配役をめぐる競争が発生します。私は今後子どもたちが実社会で経験することは、基本的には学校で経験させたいと考えています。学校の中で、教師の配慮が行き届く範囲で、失敗やうまくいかないことを経験し、その後の対応方法を学んだり、自己調整力を養ったりすることが重要だと確信しているからです。また、学芸会は本格的な演劇とは異なるものだとも考えています。専門家ではない教師が演出や監督までもする訳なので、重要なのは子どもの学びです。子どもたち自身でセリフを工夫したり、よりよい表現方法を考え出したりする中で、学年としてよりよい作品を創り出していくことに意味があります。また今年度は、高学年の子どもが専門家から学ぶ機会を得るために、11月7日(火)に音楽座ミュージカルを招き、学芸会の活動に活かせるようにします。目的意識をもって観劇したことを、どう学芸会に反映していくのか、今からとても楽しみです。



運動会を終えて…

本校の目指す、「自分の頭で考える運動会」を実践し、少しずつ形になってきたと思います。4・5・6年生の児童が運動会に必要な係を担い、それぞれの役割の仕事を6年生中心に運営しました。開閉会式の司会なども子供たちが行い、子供たちと一体となって運動会を作り上げることができたと感じています。

運動会は、運動会当日の出来も大切ですが、そこまでのプロセスで子供たちがどのように成長していくかが重要です。

6年生が主体的に動き、低学年を巻き込んで盛り上げ、最高学年の立派な姿を見せてくれたと思います。今年の子供たちと教員が一体となり作り上げていく運動会を、来年度以降もさらに質を高め、行っていくことで、子供たちの主体性や凝集性の高まりが見られれば、保護者の方々に、感動を届けられると思います。次は学芸会です！今回、高まった子供たちの力を次の行事につなげられるよう、教員一同で支援していきます。

保護者のみなさまには、子供たちの健康管理等の多くのご協力をいただき感謝申し上げます。



《教諭 柄澤 周》